

～中長期を見据えた事業性評価のプロセスとノウハウを伝授～

医薬品事業性評価の基礎と不確実性の高い場合の評価法

- ◆日時: 2018年3月27日(火) 10:30～16:30
- ◆会場: 江東区産業会館 第2会議室
- ◆聴講料: 1名につき40,980円(税込・昼食・資料付)

⇒1名につき32,400円(税込・昼食・資料付き)
2名同時申し込みの場合、1名につき21,600円(税込)

講師からの紹介割引について

本パンフレットは講師用のパンフレットです。このパンフレットでセミナーをお申込みいただくと、講師からのご紹介により左記のとおり受講料が割引になります。なお他の割引との併用はできません。

●講師: インテグレート(株) 取締役 ビジネスシミュレーション事業部長 井上 淳 氏

＜ご専門＞ 事業投資評価・事業ポートフォリオ評価・管理会計

新薬開発型医薬品ビジネスにおいては、近年、候補化合物の減少・規制当局の変化などにより、より早く未来を見通してより早い打ち手の検討を行うためのツールである事業性評価の重要性が高まっています。エビデンス評価である安全性・有効性評価に対し、事業性評価とポートフォリオ評価は予測ベースの評価であり、そのアプローチは大きく異なります。また、安全性・有効性評価とは異なり、事業性評価の業務としての歴史は浅く、業務プロセスとしての確立度合いは各社ばらつきがあるのが現状です。本講座では、冒頭にこのビジネスにおける事業性評価がなぜ必要で、何がポイントかについて概論をご説明します。その後新薬開発プロジェクトの標準的な事業性評価プロセスをご紹介します。第2部では、より不確実性の高い開発早期段階での事業性評価の位置づけやポイント・事例をご説明します。第3部では、NPVなど事業性評価でよく使われる指標の考え方の背景となるファイナンス(財務)の基礎的な考え方の解説を行います。以上のように、本講演では事業性評価のポイント・ノウハウをまとめてお伝えします。これから事業性評価業務に携わる方や、事業性評価のためのデータ作成に携わる方のご参加をお待ちしています。

第1部 事業性評価編

- 1.1 新薬開発型医薬品ビジネスにおける事業性評価の重要性
- 1.2 企画業務としての事業性評価
- 1.3 事業性評価の標準プロセスの概要
 - (1) フレーミング
 - (2) オプションとシナリオの検討
 - (3) 事業収益構造のモデル化(可視化)
 - (4) 不確実性を含むデータの設定
 - (5) デシジョンツリーを使った期待値の算出

第2部 開発早期など、より不確実性の高い段階での事業性評価のポイント

- 2.1 開発早期における事業性評価の位置づけ

2.2 開発早期における標準プロセスのポイント・事例

- (1) オプションとシナリオの検討
- (2) モデル化
- (3) データの設定とシミュレーション分析

2.3. 定期的なモニタリング(実行管理)の重要性

モニタリングのための定期的な評価サイクルの構築・事例

第3部 事業性評価に必要なファイナンス(財務)の基礎知識

- (1) 資金の時間的価値
- (2) 現在価値とは
- (3) 重要な評価指標NPV・IRRとは
- (4) 割引率の考え方

【質疑応答】

(講師紹介割引)『事業性評価』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

☐ Eメール ☐ 郵送

● セミナーの受講申込みについて ●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしていませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>